



学びの高嶺

校訓 感謝・努力・友愛

北九州市立高見中学校
学校だより 第12号
令和6年9月24日(火)
校長 若松 英昭

第79回九州合唱コンクール

「銅賞」

*Let's enjoy
new challenges!*

～準備、実行、そして次へ～

9月15日(土)に、鹿児島県で行われた「第79回九州合唱コンクール」に、福岡県代表として合唱部が出場しました。結果は「銅賞」でした。生徒たちにとって貴重な経験になったようです。

今回の出場に際し、保護者の皆様、地域の皆様に多大なご支援をいただきました。感謝申し上げます。引き続き、高見中学校の生徒を温かく見守っていただきたいと思います。



小倉駅 出発前

「九州大会を終えて」 【3年生】

福岡県大会が終わった後、「次、また鹿児島で歌える!」という喜びでいっぱいでした。

1学期の期末考査が終わり、いよいよコンクールに向けての本格的な練習が始まる日に「顧問の先生と練習できない。」ことがわかり「生徒指揮でも出場するか、しないか。」を問われた時が、まるで、本当に遠い昔のようです。

「全員で、最後までやり抜く」と決めた日から、「気持ちがすれ違う」こともありましたが、皆でミーティングを重ね、録音を先生とやり取りし、見ず知らずの卒業生の方や、江口先生にもお世話になり、今、振り返っても、本当に必死な日々でした。

金賞をいただき、九州大会が決まった時、「また鹿児島で歌える」という喜びでいっぱいでした。今までは「絶対に上がりたい」と思ってステージに立っていましたが、今年は「とにかく全力を尽くす。悔いは残さない。」という気持ちでした。結果発表の時は本当にドキドキしましたが、「金賞」と発表され、九州大会に推薦していただけることが決まった時、色々な思いで、胸がいっぱいでした。

そして、全員で立つことができた、九州大会のステージ。

この大会を通して、私は多くのことを学ばせていただくことができました。歌の技術はもちろんですが、多くの人に支えてもらっていること、自分の課題、現地で出会ったタクシーの運転手さんや、ホテル・食事場所でお世話になった方々との交流の中で、学んだ様々なことを、残りの部活動や日常生活の中で生かすことができそうです。ミーティングで、ほかの部員も言っていましたが、こんなに頑張りたいと思えたことは人生で初めてです。全国にはいけなかったけど、私の人生の大切な財産です。応援して下さる周囲の方々や、仲間がいたからこそ、貴重な体験となった3日間でした。

また、北九州市に帰ってくる前に、足を延ばして、知覧に立ち寄ることができました。知覧特攻平和会館・三角兵舎・富屋食堂(ホテル食堂)を訪れ、平和への思いを込めて、中原中也さんの詩が合唱曲になっている「逝く夏の歌」と「ふるさと」を全員で歌ってきましたが、声が震えて、うまく歌えませんでした。

このように、大会を通して、そして大会に伴って、たくさんの体験ができました。すべて、温かく見守って下さる方々のおかげです。これからも、精一杯、頑張ります。(次へ)

平和会館や富屋食堂に展示されていた遺書を読むと、兄と同じ年の方がすごく多かったのも、もし、特攻機によって出撃するのが兄だったと思うだけで、いたたまれない気持ちになったからです。「兵士」というと、キビキビした軍人のような人物を思い浮かべますが、実際の写真は、犬とじゃれあったり、変顔したり、無邪気な、どこにでもいる普通の青年でした。こんな方々が、数えきれないほど亡くなっている事実には大きくとまどいました。両親に向けた遺書を読むと、こんな事を書かせた時代に憤りを覚えました。ふるさとの1番は夢にまでみる故郷を懐かしく思う歌で、3番は故郷に帰る日を楽しみに待っていて。

でも、特攻隊の人はいくら故郷を懐かしもうと帰れず、今でも暗い海の底にいます。平和の大切さ、自由に歌えることのありがたさを今、かみしめることができています。

このように、大会を通して、そして大会に伴って、たくさんの体験ができました。すべて、温かく見守って下さる方々のおかげです。これからも、精一杯、頑張ります。

「九州大会を終えて」 【2年生】

こんなにもこんなにも色々な人に支えてもらったのは初めてで、感謝の気持ちでいっぱいだし、頑張ろうと思える理由の一つとなりました。コンクールは悔しい結果となったものの、全員揃ってあの大きなステージで歌えて良かったです。

先生から入院のことを告げられてからの約二ヶ月間の練習は、ミーティングでも伝えただけで、こんなに部活に全力を注いだのが初めてで、こんなに物事に本気になれたのも初めてで、自分でも驚きました。そして自分にとって人間的にも技術的にも成長することができたと思います。その分九州大会に上がった嬉しさも、銅賞だった悔しさも強かったです。でも正直、もうこのメンバーでコンクールというステージに立つのが最後になる寂しさの方が何倍も強かったです。

もっと私たちの全力を、色々な人に聞いてほしかったと強く思いました。コンクールのステージは、最後はバテてしまったし、休符の準備が不十分だったり、とても最高とは言えないけど、後悔の残る合唱では絶対なかったと思います。この夏はきっと一生忘れることはないだろうと強く感じました。

成長したことも反省したことも、全部とてもいい経験になりました。そして何より自分は改めて合唱が好きなんだと思ったし、合唱部に入って本当によかったな、幸せだなと心から思いました。この経験を活かして、これからの文化発表会や連合音楽会も楽しく終われるように頑張っていきたいです。

そして来年は今よりも立派に成長できるよう、練習の1回1回に全力を注いで、公共のマナー・人としての生き方なども更に学んでいけたらと思います。

何よりこのステージに立てたのは先生のおかげです。体調のすぐれない中、自分達に全力を尽くして下さり感謝してもしきれません。これからも2年生としてしっかり合唱部を支えていけるよう頑張ります。

また、平和学習を通して、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを感じました。私たちと3〜4歳ほどしか年の変わらない方々が、国のために命を落とすことを決意し、遺書を残すなんて、絶対に自分には耐えられないことだったから胸がいっぱいになりました。

涙を流さず戦場へ向かったと知り、責任感の強さと苦しみが強く印象に残りました。

ホタル食堂でも、特攻の母として慕われたトメさんの強さに心を動かされました。生き残った自分たちは、今、何をすべきなのかというのを考えさせられた時間でした。

「逝く夏の歌」と「ふるさと」を歌って、道行く人や観光客の方々が立ち止まって聞いて下さり、涙ぐんで下さったり、拍手をしていただいたりした時は、すごく胸が暖かくなりました。

戦争で命を落とされた方々に少しでも届いていたらいいなと思いました。

ありがとうございました。